



インフルエンザ過去最大の流行に

インフルエンザ(Influenza)は、インフルエンザウイルスを病原微生物とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられています。日本でも、例年冬期を中心に人口の10%前後が発病しています。典型的な発症例では**1~4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱(38℃以上の高熱)、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続きます。**いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴だとされていますが、**「昨今「かぜ」だと思われていた症状の方では実はインフルエンザウイルスに感染している「軽症例」が少なからず存在していることが明らかとなってきました。**

今シーズン(2017/2018年シーズン)のインフルエンザの流行ですが、1週間当たりの患者数は、薬局サーベイランスは勿論の事、国が行っている感染症発生動向調査をみても、**1999年のサーベイランス開始以降最多数を既に更新**しています(図)。2018年第5週現在、インフルエンザの患者数はまだ減少する兆候はなく、更に増加する可能性すらあります。2017年12月まではAH1pdmがインフルエンザ流行の中心でしたが、ここへきてB型(山形系統)が流行の中心に変わりつつあり、そうすると患者数の多い状態は長期化し、過去最大の流行規模となることも十分に考えられます。

インフルエンザの主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれています。**感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生が非常に重要**です。

中津医療センターでは、連日のように入所・通所者、患者、職員においてインフルエンザの発生が認められており、いつでもアウトブレイクが発生し得る状態が続いています。まだまだインフルエンザに対して最大限の警戒が必要です。職員の皆さんは**発熱や上気道炎症状等のインフルエンザ様症状を放置したまま勤務することは「厳禁」**です。日々自らの体調のチェックに留意してください。

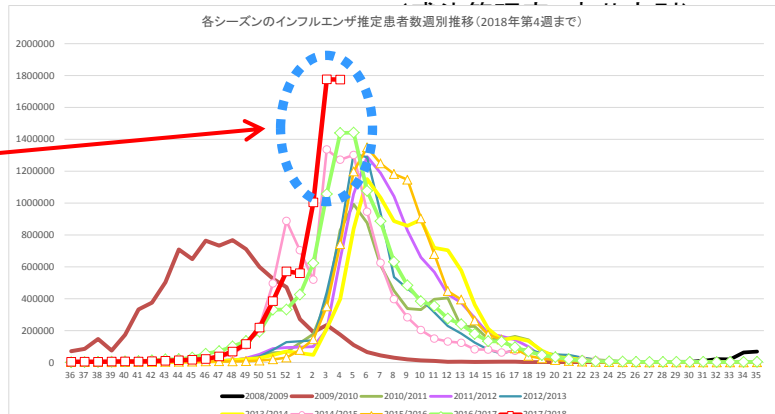


図. 過去7シーズンと今シーズン(2017/2018年シーズン)の第36~第4週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移(2018年第4週の推定患者数=1,774,469)

嘔吐物処理演習

冬といえば、ノロウイルス対策が重要!

ということで、1月17日感染リンクナースたちで**「嘔吐物処理の演習」**を行いました。模擬嘔吐物を用意し、実際に嘔吐物処理キットを用いて処理を行いました。演習のあとはグループで意見や感想などを話し合い発表しました。

「思った以上に広範囲に飛び散っていると実感した」「ベッドサイドでの嘔吐の場合、カーテンの処理はどうか」など、演習ならではの具体的な意見が飛び交い、嘔吐に対する対策をしっかりと考える有意義な演習となりました。楽しく感染対策を学ぶ機会としても嘔吐物処理の演習は最適です。よりリアルな模擬嘔吐物を作成してみなさんも各部署で一度やってみませんか?!



リアルな模擬嘔吐物!(ICN 川口さん作)
小麦粉・水・インスタント味噌汁の具(乾燥麴・わかめ)とろみをつけるためのもの(今回はトロメリンを使用)
これらをまぜまぜしたら完成!!
結構本気でリアルな嘔吐物になりました(笑)

【嘔吐物処理キット】

嘔吐の際これさえあればすぐに処理出来るよう、个人防护具や消毒薬の原液の入ったボトル(水を500mlのラインまで足せばOK)などのセットを各部署に配置しています。

